

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02172

研究課題名(和文) 再帰的な自由 論理学生成史の検討によるヘーゲル社会哲学の新解釈

研究課題名(英文) Reflexive Freedom: A New Interpretation of Hegel's Social Philosophy by Examining the History of the Formation of Logic

研究代表者

竹島 あゆみ (Takeshima, Ayumi)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：70273951

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ヘーゲル哲学の生成史における承認と自由との発展のプロセスを追いつつ、同時に承認と対極をなす和解概念の展開も視野に入れてヘーゲルの社会哲学の全体像を明らかにすることを試み、そこから現代における新たな社会哲学の可能性を展望した。具体的には、第一にヘーゲル固有の自由概念(共同的自由)の発展史、承認概念の発展史、和解概念の発展史を三つ組みの歴史として再解釈して考察した。さらにこのようなヘーゲル社会哲学の再解釈により、現代の社会哲学、とりわけ現代分析哲学における行為論の成果をも視野に入れた新しい社会存在論の構築へと踏み出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義としては、下記の3つがあげられる。

(1)社会哲学領域と広義の宗教思想領域とを架橋することが期待できる。(2)和解の可能性を探ることで、承認理論を刷新するとともに新たな社会哲学の構築を目指すことが期待できる。(3)現代社会における、政治的紛争・社会的抗争の調停、医療やケアに関わる具体的な規範的要請に応えるために「承認」及び「和解」に関する考察を援用することが期待できる。

研究成果の概要(英文)：In this research, while following the process of the development of recognition and freedom in the history of the formation of Hegelian philosophy, we attempted to clarify the whole picture of Hegel's social philosophy by considering the development of the concept of reconciliation, which is the opposite of recognition. From this, we looked at the possibility of a new social philosophy in the present age.

Specifically, the history of the development of Hegel's unique concept of freedom (communal freedom), the history of the development of the concept of recognition, and the history of the development of the concept of reconciliation were reinterpreted discussed as a tripartite history. Furthermore, through such a reinterpretation of Hegel's social philosophy, we stepped forward to construct a new social ontology that considers the results of contemporary social philosophy, especially the theory of action in contemporary analytic philosophy.

研究分野：西洋哲学

キーワード：ヘーゲル 社会哲学 社会存在論 承認 和解 自由

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景としては、以下の2点が重要である。

第一に「承認」については、17世紀の社会契約説(とりわけホッブズ)にその淵源があり、フィヒテの自然法論を経てヘーゲルに受け継がれ、その社会哲学において一定の完成を見た。ヘーゲルの承認論は Ludwig Siep による先駆的な研究により注目されるようになった(Siep, L. (1979). *Anerkennung als Prinzip der praktischen Philosophie: Untersuchungen zu Hegels Jenaer Philosophie des Geistes*. Felix Meiner Verlag)。

その後1990年台に Axel Honneth によって再び取り上げられ、批判理論・討議倫理学・社会心理学等の現代的な知見に補完されることによって、現代的な承認理論として再生されることになる(Honneth, A. (1992). *Kampf um Anerkennung. Zur Moralischen Grammatik Sozialer Konflikte*. Suhrkamp)。

また近年英米圏を中心に、ヘーゲルを分析的な実践哲学の視点から再解釈する試みも行われており、それがドイツのヘーゲル研究に影響を与えてもいる(Pinkard, T. (2004). "Reason, Recognition, and Historicity". In B. Merker, G. Mohr, and M. Quante (Ed.), *Subjektivität und Anerkennung*. Mentis; Pippin, R. B. (2008). *Hegel's Practical Philosophy: Rational Agency as Ethical Life*. Cambridge University Press; Brandom, R. B. (2019). *A Spirit of Trust*. Harvard University Press)。

第二に「和解」については、まずキリスト教神学において教義史を通じた厚い蓄積がある。もともとこの語は新約聖書(特にパウロ書簡)に現れ、和解概念はその後の神学においてその内実を発展させながら特に仲保者としてのキリスト論に重要な役割を果たしてきた(K. Barth, W. Pannenberg などの論考を参照)。

しかしながらヘーゲルにおける和解概念は、上記承認論に対する注目の陰に隠れて、(R. R. Williams や E. Rózsa による一連の著作等はあるものの)概ね等閑視されてきた。

我々のこれまでの研究成果としては、ヘーゲルにおいて前期(1806年頃まで)の承認論は、「和解」とのせめぎあいの中で形成されてきたこと、それが『精神現象学』を頂点として、以降は背景に退いていき、後期(1817年頃から)の自由を軸とした構想へと発展的に解消されることを明らかにし、著書(竹島あゆみ(2016)『承認・自由・和解——ヘーゲルの社会哲学——』岡山大学研究叢書38)で示した。

以上の背景のもとに、「承認」と「和解」という対立しあう、またそれぞれに弱点を含んだ二つのものを、その弱みゆえに我々の社会という此岸の原理をなすものとして考察しようということが本研究では出発点をなしていた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、ヘーゲル哲学、特にその論理学と精神哲学の生成史における承認と自由との発展のプロセスを追いつつ、同時に承認と対極をなす和解概念の展開も視野に入れてヘーゲルの社会哲学の全体像を明らかにし、そこから現代における新たな社会哲学の可能性を展望することである。

具体的には、第一にヘーゲル固有の自由概念(共同的自由)の発展史、承認概念の発展史、和解概念の発展史を三つ組みの歴史として再解釈する。

また、第二にこの発展史の背景にはヘーゲル論理学の生成史があると考え、論理学生成史そのものを検討するとともにヘーゲルの社会哲学の発展史との関係を解明する。

以上のようなヘーゲル社会哲学の再解釈により、「承認」と「和解」という対立する二つの原理を不可欠の要素として包含しうる社会哲学を構想し、現代の社会を対象としそこでの様々な困難に対峙する新しい社会哲学の形成を目指す。この試みは現代社会の諸問題を考察する上で重要な社会的な意義がある。

## 3. 研究の方法

1) 関連テキストと比較対照しつつ、アカデミー版ヘーゲル全集、Hegel, G. W. F. (1968ff.). *Gesammelte Werke*. In Verbindung mit der Deutschen Forschungsgemeinschaft. Hrsg. von Nordrhein-Westfälischen Akademie der Wissenschaften, Felix Meiner Verlag [=GW]所収のヘーゲルの諸著作を精査した。とりわけ、未だ解釈と評価が固まっていない、体系期講義録や手稿類を重要な研究リソースとして扱った。

2) 哲学・思想史・神学の領域全体、さらに文学・法学・政治学・社会学・心理学・歴史学などの周辺領域にも対象テキストを広げ、領域横断的なテキスト読解を行った。

3) 本研究にかかわるテーマでの国際的な研究会を企画し、ドイツをはじめとして海外から有力な研究者を招いて有意義な研究交流を行うとともに、国際学会での発表、国際的な学術雑誌へ

の投稿を通じて研究成果を海外に発信した。

4) 上記の研究のための予備的な作業として、ヘーゲルの諸著作及び2次文献の広範な電子テキスト化を行った。

#### 4. 研究成果

##### 2017年度

1) 承認・和解・自由をめぐる問題を『精神現象学』及び『法哲学要綱』に加えアカデミー版ヘーゲル全集におけるヘーゲル講義録を含めた法哲学テキストをさらに詳しく精査した。

2) 同時に、現代における新たな社会哲学の可能性を展望するため、ヘーゲルにとどまらず、より広い視野でも承認・和解をめぐる社会哲学的問題をテーマとした研究会を企画し、海外からの研究者を招いて研究交流を行った。

具体的には、

Prof. Michael Quante (University of Muenster)を招き「ヘーゲル『精神現象学』における自由の問題」研究会(岡山大学、2017年4月13日)を開催し、『精神現象学』における承認・和解・自由をめぐる問題を、とりわけQuante教授の唱える現代行為論の視角からのヘーゲル解釈を一つの参照枠として考察し、議論した。

Prof. Nicolas de Warren (KU Leuven)を招き「人の悲劇 第一次大戦に臨むフッサー」研究会及び講演会(岡山大学、2017年8月11日)を開催し、現象学における社会哲学の立場とヘーゲルの社会哲学の立場を比較しつつ議論した。

##### 2018年度

1) 前年度に引き続きヘーゲルの社会哲学の発展史について論理学の生成史を視野に入れつつ研究を行った。その成果の一部は、論文「「媒辞が自己意識であり、それが両極へと分解する」とはどういうことか?」(2019)にまとめた。

2) また同時に、その成果を国際学会での発表の形で海外にも発信し、また海外からの研究者を受け入れて研究会・講演会を開催し、研究交流を行った。具体的には、

国際ヘーゲル学会(International Hegel Congress)の第32回大会(タンペレ大学、フィンランド、2018年6月8日)において『精神現象学』における承認・和解・自由の問題を“Recognition, Reconciliation, and Freedom in the Phenomenology of Spirit”として発表した。またタンペレ大学(フィンランド)教授のArto Lehtinenと現代哲学の潮流における承認論の発展について議論し、研究交流を行った。

Michael Quante (University of Muenster), Lisa Schmidt (University of Muenster)を招き、研究会及び講演会“Person, Moral, and Society”(岡山大学、2018年9月25日)を開催し、ヘーゲルにとどまらず、現代分析哲学における行為論、パーソン論の観点から、また現代倫理学(バーナード・ウィリアムズ)の観点から承認・和解・自由をめぐる社会哲学的問題をテーマとして、現代における新たな社会哲学の可能性を展望した。

##### 2019年度

1) 先行研究においてまだほとんど研究が進んでいないヘーゲルの体系期講義録や手稿類を、法哲学講義以外のものも含め詳細に検討することを中心として、ヘーゲルの論理学の生成史及び社会哲学の発展史を跡づける研究を行った。その過程で検討した体系期講義録の一部(“Geschichte der Philosophie Berlin angefangen 24 October 1820” in GW. Bd. 18)の日本語訳を行い、哲学研究者のみならず一般市民にもヘーゲル哲学を近づきやすいものとして普及する事業に参加した。この翻訳は既に完了しており、2021年度中に日本語版ヘーゲル全集の第16巻に収録されて知泉書館から公刊される予定である。

2) さらに承認・和解・自由をめぐる問題を新たにフェミニズムの文脈の中に置き直して考察した。この試みは、新たな観点からヘーゲルの承認理論を現代に再生し、現代の社会哲学の展開に寄与することになると考える。その成果の一部は論文「人倫と「妹の力」 ―ヘーゲル『精神現象学』におけるアンティゴネー」(2019)及び「ヘーゲルの「妹」 ―アンティゴネーとクリスティアーネ」(2019)にまとめた。

3) 承認・和解・自由をめぐる研究から新たに派生してきた研究として、日本の近代化を背景にした、日本におけるヘーゲル哲学の受容について、またヘーゲル哲学と日本思想との比較についての研究も行い、その成果の一部を英語論文、“The Reception and Translation of Hegel in Japan”(2020)にまとめた。これは国際的な学術誌に掲載され、海外のヘーゲル研究に日本からの新たな視点を付け加えることに貢献した。

##### 2020年度

本年度は研究の最終年度であるため、総まとめとしてヘーゲル哲学の生成史における承認と自由との発展のプロセスを追いつつ、同時に承認と対極をなす和解概念の展開も視野に入れてヘーゲルの社会哲学の全体像を明らかにすることを試み、そこから現代における新たな社会哲学の可能性を展望する研究を行った。

具体的には、ヘーゲル固有の自由概念(共同的自由)の発展史、承認概念の発展史、和解概念

の発展史を三つ組みの歴史として再解釈して考察するとともに、さらに現代の社会哲学、とりわけブランダム、ピピン、ピンカードらネオ・ヘーゲリアンの動向にも着目し、現代分析哲学における行為論の成果をも視野に入れて、新しい社会存在論の構築へと踏み出した。

その成果の一部は論文「承認論の現在」(2020)にまとめた。

また、その成果の一部について海外に発信するべく、国際ヘーゲル学会 (International Hegel Congress) 第 33 回大会 (オンライン) において、下記のように発表予定であり、既にビデオファイルを投稿し、査読の上発表は受け入れ済みである (Takeshima, A. "The Concept of Freedom in the Introduction to the Elements of the Philosophy of Right", (ワルシャワ大学、ポーランド、2021 年 6 月 21 日) )

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 竹島 あゆみ	4. 巻 34
2. 論文標題 人倫と「妹の力」 ヘーゲル『精神現象学』におけるアンティゴネー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 邂逅	6. 最初と最後の頁 53-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹島 あゆみ	4. 巻 25
2. 論文標題 ヘーゲルの「妹」 アンティゴネーとクリスティアーネ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヘーゲル哲学研究	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹島あゆみ	4. 巻 47
2. 論文標題 「媒辞が自己意識であり、それが両極へと分解する」とはどういうことか？：ヘーゲル『精神現象学』自己意識章「承認の純粹概念」の再検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ayumi Takeshima	4. 巻 49
2. 論文標題 The Reception and Translation of Hegel in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Verifiche: Rivista di scienze umane	6. 最初と最後の頁 147-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹島あゆみ	4. 巻 73
2. 論文標題 承認論の現在	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岡山大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ayumi Takeshima	4. 巻 なし
2. 論文標題 Recognition, Reconciliation, and Freedom in the Phenomenology of Spirit	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Hegel-Jahrbuch 2019	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Ayumi Takeshima
2. 発表標題 Recognition, Reconciliation, and Freedom in the Phenomenology of Spirit
3. 学会等名 International Hegel Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayumi Takeshima
2. 発表標題 The Concept of Freedom in the Introduction to the Elements of the Philosophy of Right
3. 学会等名 International Hegel Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Person, Moral, and Society	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 人の悲劇 第一次大戦に臨むフッサール	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------